

和歌山

地域面3ページ

和歌山支局

〒640-8154 和歌山市六番丁5
和歌山第一生命ビル4階
TEL 073(431)1411
FAX 073(433)0650
wakayama@mainichi.co.jp

【通信機關】

橋本 0736(32)0063 新宮 0735(28)1751
海南 073(482)0675 御坊 0738(22)2511
湯浅 0737(62)2870 田辺 0739(26)1026
【広告問い合わせ】 073(423)9291
【購読問い合わせ】 0120-468012

冒の上
マーク・矢崎 10 E

熊野古道

熊野三山の中心地・本宮大社で、今年も春の例大祭が執り行われた。このお祭りは五穀豊穣を願う3日間の奉

祭り。その初日、4月13日の湯登神事と宮渡神事に立ち会うことができた。

励ます姿
かった。

安はほほ笑まし

難所の大日^{おほひ}を登り始めた。私は大^{おほ}き原に先回りして夕刻の宵宮行列・宮渡神事を待つことにした。

もこの神事を通じて
苦しい体験を共にでき
る人間になつて欲しい
と願つてゐる。カナダ
から本宮に來たアラム

霧雨の幽玄な稚児の列

13日の湯登神事と富渡神事に立ち会うことができた。まずは湯登神事。参加者は宮司と神職、氏子、神樂人笛(太鼓)、稚兒、氏子総代など約30人で、主役の稚兒は11人。午前9時半、ウマ役の父親に肩車され、一列横隊、宮司に合せて拝礼。「湯登神

励ます姿はほほ笑ましかった。
国道に出た一行と分かれ、私達は車で0分ほど湯の峰温泉に先回りする。一行は頭屋といわれる旅館^やとなる宿館あつまやで、湯垢離^{ゆく}(入浴による潔斎)の後、湯粥を食べる。ここで稚兒は額に「大」を書かれて神の子となる。神事に關係のない私達は小栗判官の「つ

難所の大日^{おほひ}を登り始めた。私は大^{おほ}原に先回りして夕刻の宵宮行列・宮渡神事を待つこととした。

「もこの神事を通じて、苦しい体験を共にできる人間になって欲しいと願っている」。カナダグリーンから本宮に来たブラン・ド・トールさんは、熊野に残るお祭りをいろいろ見見たが、この湯登神事が一番面白い。今回家族ぐるみで参加したが、コンパクトな祭りで、参加したみんなが仲良く祭りを楽しんでいた。春の雰囲気がいい。

事を通して、神々の魂
・わが子の命を熊野の
神の申し子として体感
いただき、ご両親・子
供さんの新たなる第
一步の口としていただ
きたい」と富司のお言
葉。この後一行は稚児
を肩車にしたまま列を
作って湯の峰温泉へ。

寺」、茹で卵の「湯筒」などを散策した。午後1時15分、高台の湯の峰王子社へ登った一行は社殿前で社頭たちを囲み、太鼓と笛笙が奏でられる中で祭典が厳かに執行された。次は、稚児が自らの太鼓を叩きながら、左に3回、右に3回、もう一度左に3回回る八撥神事。汗を拭つた父親は稚児を肩車にし、

は、八重桜に囲まれた大斎原の石祠前で行なれた祭典と八幡神事で最高潮に達し、神の降臨を感じさせられた。後でウマ役の父親に感想を聞いた。地元出身の泉辰徳さんは「稚児を一日中地に下ろさず、退屈させずに行行列することは苦しい体験だが、子育ての一環として挑戦してみたい」と思い、申し込んだ。子供

族にはよい思い出がある。子供には、皆一緒に新しい事に挑戦する前向きな心が持てるよう願っている」。
お二人とも、神事は親子の絆を深める場であり、親の願いとして強い子に育てるための苦行の場と捉えていたようだ。神事は観光イベントでなく、本宮社の氏子の成長の嘗めの一歩である。